

震災から1年半が経過しての現状子どもを取り巻く課題 ー小中高生の子ども支援活動の現場からー

2012.09.20

特定非営利活動法人キッズドア

課題

- 低学力化、成績不振による無気力化
※元々の低学力、貧困家庭を含む
(授業で分からないまま／昨年度の学び漏れによる)
- 不登校の長期化
(生活環境変化や家庭内不和による)
- 不透明な将来キャリア
(農漁業を起点とした2次・3次産業の喪失・経営不振)
- 運動能力の低下
(バスでの登下校と遊び場の激減による)
- 自治体の子どもに係る人員不足
(復旧・復興関連部署への配転等による)
- 仙台市(政令市)と他の市町、被災度合による市町間格差
※市町内の地区別の格差を含む

対応案

- 学校内または地域の放課後学習会を
各地域のNPO等へ委託
※宮城教育大学「教育復興支援センター」(文科省補助事業)
が、取りまとめを行う、又は、NPO等の運営を補助する(案)
- 養護教諭の増員
※スクールカウンセラー(臨床心理士資格者)の不足状況と
非常勤という雇用形態では対応しきれないため、
保健室等に常勤の教員補充が必要かつ重要である
- 企業と連携したキャリア教育
※地元産業(誘致企業を含む)の他、来るグローバル社会で
必要な知識・スキル・視座を早期に身につける
- 仮設運動場の早期改修または設置
※仮設住宅がある校庭には、ボール除けの高いネットを設置
して、ボール遊びも可能にする。空き地に運動場を増設する。
- 教育、福祉、産業、復興計画の各部局
の連携促進
※必要に応じて、コーディネーターを配置する
※コーディネーター役として民間コンサルタント、又は、
NPO等に委託する
- 民間企業やNPO職員との人事交流
(出向等)、臨時職員としての補充